

第1号様式(第7条関係)

令和5年4月1日

稲城市議会議長
渡辺 力 殿

会派名 起風会
経理責任者 中田 中



稲城市議会政務活動費の交付に関する条例第7条第1項に基づき、別紙のとおり令和4年度政務活動費収支報告書を提出します。

第2号様式(第7条関係)

令和4年度政務活動費収支報告書

会派名 起風会

1 収入
政務活動費 600,000 円

2 支出

(単位 円)








科 目	金 額	主たる支出の内訳
研究研修費	17,138-	日本自治創造学会研究大会(5/19,20)
調査費	0-	
資料作成費	0-	
資料購入費	82,769-	D-file購読料、書籍購入13冊
広報費	0-	
広聴費	0-	
通信費	84,000-	通信費、タブレット負担金
事務費	15,633-	Apple Pencil、複写機利用費
その他の経費	0-	
合計	199,540-	

3 残額 400,460 円

令和四年度 起風会 政務活動費 収支報告

2023/4/7

		R4予算	R4実績
収入		¥600,000	¥600,000
政務活動費		¥600,000	¥600,000
その他(利息)		¥0	¥0
支出		¥219,000	¥199,540
A.研究研修費 ※会場費、講師謝礼、出席者負担金、会費、交通費、旅費、宿泊費等		¥15,000	¥17,138
A-1	2022/5/19 日本自治創造学会研究大会参加費	¥15,000	¥15,000
A-2	2022/5/19 日本自治創造学会研究大会交通費(稲城～神保町～若葉台)		¥1,048
A-3	2022/5/20 日本自治創造学会研究大会交通費(若葉台～神保町往復)		¥1,090
B.調査費 ※交通費、旅費、宿泊費等		¥0	¥0
B-1			
C.資料作成費 ※印刷製本費、翻訳料、調査委託費、コピー代金等		¥0	¥0
C-1			
D.資料購入費 ※図書購入費、新聞・雑誌購読料等		¥60,000	¥82,769
D-1	2023/3/16 D-file購読料	¥60,000	¥60,000
D-2	2023/3/16 D-file購読料 振込手数料		¥110
D-3	2022/5/8 書籍「キレイゴトめきの農業論」久松達央		¥814
D-4	2022/6/3 デジタル書籍「教育DXで『未来の教室』をつくろう」浅野大介		¥1,691
D-5	2022/6/6 デジタル書籍「GIGAスクール構想で進化する学校、取り残される学校」平井聡一郎		¥2,163
D-6	2022/6/13 デジタル書籍「個別最適な学びと協働的な学び」奈須正裕		¥2,008
D-7	2022/6/16 デジタル書籍「政治学者、PTA会長になる」岡田憲治		¥1,563
D-8	2022/11/4 書籍「ニッポンの風景をつくりなおせー一次産業xデザイン=風景」梅原真		¥559
D-9	2022/11/28 デジタル書籍「自治会・町内会 負担軽減&IT活用事例ブック」水津陽子		¥1,291
D-10	2022/12/23 デジタル書籍「令和・アフターコロナの自治会・町内会運営ガイドブック」水津陽子		¥990
D-11	2023/2/14 デジタル書籍「朽ちるマンション 老いる住民」朝日新聞取材班		¥667
D-12	2023/2/16 デジタル書籍「公民連携まちづくり事例&解説エリア再生のためのPPP」日経アーキテクチャ		¥3,457
D-13	2023/2/16 デジタル書籍「持続可能な地域のつくり方ー未来を育む『人と経済の生態系』のデザイン」		¥2,357
D-14	2023/2/24 デジタル書籍「スマート・イフ・シティ:テクノロジーは都市の未来を取り戻すために」ハン・グリーン		¥2,440
D-15	2023/3/12 デジタル書籍「これからの『社会の変わり方』を、探しにいこう」SSIR Japan		¥2,659
E.広報費 ※広報紙・報告書印刷費、送料、会場費、交通費等		¥0	¥0
F.広聴費 ※会場費、印刷費、交通費等		¥0	¥0
G.通信費 ※電話・ファクシミリ料金、はがき・切手購入費等		¥84,000	¥84,000
G-1	2023/3/31 中田・鈴木通信費(¥2500x12カ月x2名)	¥60,000	¥60,000
G-2	2023/3/31 中田・鈴木タブレット端末使用負担金(¥1000x12カ月x2名)	¥24,000	¥24,000
H.事務費 ※事務用消耗品費、事務機器賃借料、備品購入費		¥60,000	¥15,633
H-1	2023/3/14 Apple Pencil(第1世代)		¥12,283
H-2	2023/3/20 複写機利用費用		¥3,080
H-3	2023/3/20 複写機利用費用 振込手数料		¥270
I.その他経費 ※上記以外の経費で会派が行う調査研究活動に必要な経費		¥0	¥0
差引		¥381,000	¥400,460

議長	副議長	事務局長	次長	係長	係長	係
						

書 出 届 施 実 張 出 派 会

出張期日	令和4年5月19日(木)	
出張先	2022年度 日本自治創造学会研究大会 「変化への挑戦！～元気な地方を創り出す～」 会場：一橋大学 学術総合センター 一橋講堂(千代田区)	
研究研修・ 調査課題等	「日本のデジタル政策」 牧島かれん デジタル大臣	
	「人口減少・成熟社会のデザイン」 広井良典 京都大教授	
	「地域活性化に資する経済産業省の取組みについて」 多田明弘 経産相事務次官	
	「パネルディスカッション 民間人の活躍で地方活性」 阿部裕志 (株)風と土と代表取締役 柳澤大輔 (株)カヤック代表取締役 若新雄純 慶應義塾大学特任准教授	
宿泊所	所在 名称	なし
主要交通 経路	行き：稲城駅～(京王線)～新宿駅～(都営新宿線) ～神保町駅 ※午前中公務のため市役所から出発	
	帰り：神保町駅～(都営新宿線)～新宿駅～(京王線) ～若葉台駅	
参加者 氏名	中田 中	

稲城市議会議長

渡辺 力 殿

上記のとおり、会派研修を実施いたしたく届け出ます。

令和4年5月10日

会派名 起風会

氏名 中田 中



第14回 2022年度 日本自治創造学会 研究大会

変化への挑戦!

～元気な地方を創り出す～

日時

2022年 5月19日(木) 13:00～17:30

5月20日(金) 10:00～14:35

※新型コロナウイルスの感染拡大等の事情によりオンライン開催に変更となる場合がございます。

場所 東京 一橋大学 学術総合センター2階 一橋講堂
東京都千代田区一ツ橋2-1-2

参加費 会 員 **13,000円** (年会費2,000円、2日間大会参加費・資料代含む)

※大学院生会員参加費 2,000円 (年会費、2日間大会参加費・資料代含む)

非会員 **15,000円** (2日間大会参加費・資料代含む)

※大学院生非会員参加費 3,000円 (2日間大会参加費・資料代含む)

改革発表会兼交流会 参加費 1,500円

主催 財団法人 日本自治創造学会

第14回 2022年度 日本自治創造学会 研究大会

変化への挑戦! ～元気な地方を創り出す～

日程

2022年 5月19日(木) 13:00～17:30
5月20日(金) 10:00～14:35

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンライン開催による開催の可能性があります。

会場 第一橋大学 学術社会センター2階 第一講堂
東京都千代田区一ツ橋2-1-2

料金 全 13,000

※大学

学生会 15,000

※大学

学生交際費

整理券等

参加受付票







107139
振込市路会館 1F 1111 1F 1111

第14回 日本自治創造学会 研究大会
5月19日(木)、20日(金) 第一橋大学学術社会センター2階 第一講堂

上記の研究大会への参加申込みをいたしました。
参加費は当日受付にてお支払いください。
非会員参加費15,000円(資料代含む)

当日は、この書状を必ずお持ち下さい。
券つり銭のないようご注意ください。
財団法人 日本自治創造学会事務局
TEL: 03-5546-2227

主催 財団法人

議長	副議長	事務局長	次長	係長	係長	係
						

会 派 出 張 終 了 報 告 書

出張期日	令和4年5月19日(木)
出張先	2022年度 日本自治創造学会研究大会 「変化への挑戦！～元気な地方を創り出す～」 会場：一橋大学 学術総合センター 一橋講堂(千代田区)
研究研修・ 調査課題等	「日本のデジタル政策」 牧島かれん デジタル大臣
	「人口減少・成熟社会のデザイン」 広井良典 京都大教授
	「地域活性化に資する経済産業省の取組みについて」 多田明弘 経産相事務次官
	「パネルディスカッション 民間人の活躍で地方活性」 阿部裕志 (株)風と土と代表取締役 柳澤大輔 (株)カヤック代表取締役 若新雄純 慶應義塾大学特任准教授
	<p>「日本のデジタル政策」 牧島かれん デジタル大臣</p> <p>1. デジタル臨調(デジ臨)</p> <p>目的: 全ての改革のペースとなる「デジタル原則」を定める 設置の背景: 日本のデジタル化が世界的に見て遅れている コロナによって日本の構造的課題が浮き彫りになり本質的な構造改革の機運が高まったこと</p> <p>デジタル原則の方向性</p> <p>①デジタル完結・自動化 ②相互運用性の確保 ③デジタル共通基盤の利用 ④アジャイルガバナンス ⑤官民連携原則</p> <p>デジタル化の効果は経済成長に寄与する→3方良しの改革 行政手続きコスト20%減で1.3兆円 例)押印廃止 中小企業へのAI導入で経済効果11兆円</p> <p>デジタル臨調の論点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則の提示 ・規制と手続きの見直し ・準公共分野に係る検討 ・EBPM(エビデンスに基づく政策決定) <p>福岡市でデジタル原則に沿っていない183条項の93%は国のルールに基づいている →自治体内でできる見直しは7%。国主導の改革が必要</p> <p>2. デジタル田園都市国家構想(デジ国)</p> <p>目標: 地方の魅力そのままに年に負けない利便性・可能性 キーワードは、ウェルビーイングとサステナビリティ</p> <p>実現に向けての取組み</p> <p>デジタル基盤の整備、先端的サービスの提供、制度整備 地域産業の高度化、官民学一体、大学・高専を中核に、等</p> <p>成功のカギは、</p> <p>①デジタルでフルサポート ②関係者の力を総動員</p>


 収受
 檜城市議会
 -4.7.20
 第 号

③再設計 ④EBPM ⑤デジタル共通基盤

ウェルビーイング指標等を活用したKPIを設定しEBPMを推進する

「地域活性化に資する経済産業省の取組みについて」

多田明弘 経産相事務次官

- ・中小企業政策の方向性
スケールアップ型(グローバル型・サプライチェーン型企業)
パワーアップ型(地域資源型・地域コミュニティ型企業)
- ・事業再構築生産性向上
事業再構築促進事業、事業再編・再生支援事業、
生産性革命推進事業、がんばろう！商店街事業
- ・下請取引適正化
- ・地域資源
インバウンド・対内投資促進、JAPANブランド育成支援
地域共生型再生可能エネルギーの普及促進
- ・産学連携
Go-Tech事業、産学融合拠点創出事業
- ・人材
サードプレイスづくり、デジタル人材育成プラットフォーム
- ・デジタル
日本改造ロードマップ、シリコンアイランド九州復活

「人口減少・成熟社会のデザイン」 広井良典 京都大教授

1. 人口減少社会の意味

日本の総人口は2008年をピークに減少
2030年には高齢化率31.2%、2050年には37.7%
→ピンチをチャンスに変える発想が求められる
高度成長期の価値基準・考え方(経済成長に偏重し、
全て東京が頂点)を改める必要がある
「幸せ」の指標は多様化している
ウェルビーイング、GAH(荒川区)、幸せリーグ
経済成長とウェルビーイング向上は相関しない
コミュニティ、平等性、自然環境、精神的拠り所、等
若い世代の視点はローカルに向かっている
三大都市圏では急激に高齢化が進みつつある
→地域への着陸の時代

2. AIを活用した日本の未来への政策提言

地方分散型社会が望ましい
人口、財政・社会保障、地域、環境・資源の
4つの持続可能性の観点でシミュレーションし、
都市集中型と比較した
→長野県、岡山県真庭市、兵庫県などで採用
ポストコロナ社会を想定したシミュレーションも実施
→女性活躍やリモートワーク推進等も含め、
分散型社会がよいとの結論変わらず

3. 分散型社会(ローカルかつ生命を重視する時代)
働き方・住まい方・生き方を含む包括的な「分散型社会」へ
ローカリゼーション
- ・過度なグローバル化やインバウンド依存から
ローカルなヒト・モノ・カネの循環に基づく経済システムへ
 - ・「歩いて楽しめる街」(ウォークアブルシティ)の推進
例)ドイツの地方都市、熊本市「まちの大広間」
 - ・小水力発電のような地産地消エネルギー
 - ・現在は一極から少極集中(札幌・仙台・福岡など)の途上
今後は更に多極集中へ
- ポスト情報化時代は「Life(生命・生活・人生)」の時代
- ・「Life」関連産業がますます重要に
健康・医療、環境(自然エネルギー含む)、生活・福祉
農業、文化
 - ・デジタルはあくまで手段。GAFAの後追いでは未来は
生まれない
- ローカルから出発し、環境・福祉・経済が調和した「持続可能な福祉社会」のモデルを実現・発信するのが日本の役割

- 「パネルディスカッション 民間人の活躍で地方活性」
持続可能な地域づくりを目指す海士町の取り組み
阿部裕志(株)風と土と代表取締役
- ・海士町は課題先進地 →人口減少(人口2300人)、
超少子高齢化(高齢化率41%)、超財政難
 - ・海士町の生き様・心意気「ないものはない」
 - ①「ありません」(便利でないことを積極的に受け入れる)
 - ②すべて「あります」(でも人生で大切なものは全てある)
 - ③ないなら「つくる」(創る過程にこそ意味がある)
 - ・やってきた「まちづくり」
仕事づくりー地域資源を活かす、あるものを磨く
ひとづくりー島だから出来る教育(島留学)、人の流れ変える
まちづくりー”よそ者”を活かす、共につくり共に変わる
→人口減少ストップ&多子化に転じた奇跡の島へ
 - ・持続可能な地域とは？
「持続可能な地域」づくりではなく、持続可能な「地域づくり」
地域の「受益者」づくりではなく、「主体者」づくり
→地域の主体者が世代を超えて現れ続ける、を目指す

- ・持続可能な地域づくりのキモ
誰も始めから主体的だったわけではない
→オーナーシップ(主体性)の獲得が連鎖すること
それには”出番”が必要
”出番”は、主体性を引出し、居場所を作る
- ・出番づくりのコツ
 - ①次世代・よそ者への相談からはじめる
 - ②自分の言葉で地域のビジョンを語る
「自らの島は自ら守る」「持続可能社会のタグポート」
 - ③共感が得られれば、相談に乗ってくれる

- ・出番づくりの連鎖
 - 地元リーダー(60-80代)
 - ”自らの島は自ら守る” わらをもすがる思い
 - 移住者(40代)
 - ”社会モデルづくり” 人生かけて挑戦
 - 地元中堅(40代)
 - ”海士らしい海士を” 次は俺達の出番
 - 地元若者(20代)
 - ”もっと面白い島に” 海士の大人に憧れる
- ・会社紹介「風と土と」
 - 風の人(よそ者)と土の人(地元)が共に風土を創る
 - 社員7名+トヨタ出向者+応援団(株主・アドバイザー)
 - 事業内容:人材育成(企業向け研修)、出版(出版社「海士の風」、地域づくり(島の課題解決)
- ・(まとめ)地方分散社会に必要なもの
 - 心の自立「自分達の地域は自分達でつくる」
 - 地の自立「地域の未来を自分達で考える」
 - +挑戦に共感してくれる応援者

カヤックの取組み、鎌倉市の地域づくり

- 柳澤大輔 (株)カヤック代表取締役
- ・面白法人カヤック
 - スマホアプリ開発、コミュニティ事業
 - イベント企画「うんこミュージアム」、飲食業
- ・鎌倉のまち全体をオフィスに
 - 本社棟、研究開発棟、会議などが鎌倉駅周辺に点在
 - 鎌倉市内の企業と合同で、社員食堂や保育園も運営
 - 職住接近を推奨し、市内在住者の住宅手当を増額
- ・カマコン(鎌倉をよくしたいと思う法人・個人がアイデアを出しあい、その企画プロジェクトをITで支援する会)
 - 定例会でアイデアを5分プレゼン→チームでプレスト
 - 定例会でお披露目+仲間集め→プロジェクト実行
 - (プレストでは意見を出さない、純粋にアイデアを出す
 - 真剣に考えてアイデア出すと、主体的に関わりたくなる)
 - 合同会社説明会、鎌倉限定クラウドファンディングなど
 - 多数のプロジェクトの実績あり
 - 鯖江、横須賀、逗子など、カマコンが全国に拡大

・地域コミュニティ通貨「まちのコイン」

- スマホアプリベースの地域通貨、全国17か所で導入
- お金で買えないうれしい体験
- ①つながりが生まれる(お店の常連さんになれたり、イベントに参加できたり、人やまちとつながれる)
- ②ちょっとお得(おまけがもらえたり、裏メニューが頼めたりする)
- ③だれかの役に立つ(誰かのお手伝いやゴミ拾い、エコバッグ持参など、ひと・まち・環境のために)

持続可能な仕組みとするため、コインが循環し続ける工夫が必要

一定期間使わないと回収

日本円に換金不可、支払いとして利用不可

ゲーム性の導入(参加するとレベル上がる、スタンプ、ラッキーコイン、ボーナスなど)

関係人口づくりに貢献(仲良くなる通貨)

住民気分のディープな体験を提供することができる

移住者がまちとの距離を縮めるのに役立った

(素敵な鎌倉人に出会えた・会話できた、お店に2回通う位で常連になれそうな感触があった)

SDGsの取り組み状況を可視化

まちで大事にしてる価値観に沿った商品・活動を値付け

→自分達のお金で買えない幸せを増やす通貨となる

デジタル地域通貨で、お金を再設計

これまでのお金の課題

目に見えない価値を計測・交換できない

一元的な価値観に集約されてしまう

お金を稼げない人＝弱者となりがち

地域では、経済資本に加え、社会資本・環境資本を重視

する必要があるが、この2つを計測するには新たなツール

(デジタル地域通貨)が必要

カヤックの鎌倉での取り組みは書籍「鎌倉資本主義」参照

JK、青春、1000万円

若新雄純 慶應義塾大学特任准教授

1. 鯖江市役所JK課

・目標と計画がない←大人の都合でつまらなくしたくない

・「まちづくり」の「まち」はもともと定義が曖昧なもの

→市民が楽しく協働し、試行錯誤した方がよい

ゴールを決めて最短距離でそこに向かうのではなく

実験しながら取り組むと新たな発見があり、新しい

「何か」につながる

・どんな田舎のまちでも”界限”と言われるプロっぽい大人の

世界があり正解を押し付けてくるが、それは全力で排除

例)自衛隊駐屯地と地元JKの交流→制服が微妙という

ことで私服のファッションショーを駐屯地内で開催

夜の市役所で肝試しを開催

・その結果、総務大臣賞、国連で紹介、現代社会の教科書

掲載、更にJK課卒業生の8割が福井残る

→ぜんぶたまたまの結果

2. 南砺市 高校生に1000万円プロジェクト

・高校生に自由な発想でまちづくりしてほしいと、1000万

円を現金で渡す(500万はZOZO前澤さんからの寄付)

・目標は+1以上(成果を求めない)→青春をやりきる!

- ・その結果、コロナ禍で学校行事やイベントの中止が続く中
花火大会、発表会などを開催でした
- ・市長も「頼まれたことは断らない」と大人の本気を見せる
→お姫様のコスプレも快諾
「青春に1000万なんて安いよね」発言

パネルディスカッション

- ・地方における”計測不可能な数値化できない何か”が大事
→まちのコインなら現金の価値観を引きずらないのでできる
例)市長のイスに100コインで座れる
八百屋さんの野菜の仕入れに300コイン払って同行
(逆に300コインもらって手伝う、もあり得る)
→物々交換に通じる。もらったものは清算しきらない
- ・田舎の人の価値観は両極端
物々交換はしつつ、週刊ダイヤモンド・東洋経済に書いてある
学歴・お金などの価値観も大好き
→物々交換しているものはお金になると考えていない?
島人は挨拶を当たり前のようにやる(知らない人にも)
→挨拶も経済(or物々交換)の一つでは?
- ・JK課は今年で10年継続している
目的なしがよかった
”らしさ”が続くコツは”言葉”。言葉が全てを作る
→JK課という言葉が古く感じるようになったら名前を
変更した方がいい
楽しい方が続く。必ずしも経済的でなくても続く
→つまり報酬がまちのコインでもOK
「なんか楽しかった」(言葉で説明できないけど)が大事

- ・人生は思い出づくり
楽しい経験はもちろんだが、苦しい経験も思い出になる
その心持が周りの人に伝播する
(上から目線はダメだが)出番という謎の押し付けもそれ
- ・移住者数など客観的な数値で成果を説明してきたけど。。。
でも本当は「それ(だけ)じゃない」感。説明できないが
目に見えない価値観・楽しさ・満足感が根底にある
- ・”バカバカしい”は最高のクリエイティブ
バカバカしいものほど、真剣にやらないとダメ
コケるかウケるか分からないから、結果よりも
本気で取り組む姿勢が大事
→海士町の”綱引き”や1000万プロジェクトも同じ
(成功するとは限らないけど)コケても本気で取り組んで
いれば結果に納得できる、いい思い出になる

	<p>・海士町 青年団活動の経験者が、町長などのまちの中心メンバーになってる。その熱量が根っこにある その熱量に心が動かされ、一緒にやってみたいと考えるようになった、という感じ →粘り強いしつこい説明は大事。好きになってくれるための武器になる</p> <p>・鎌倉市 行政や地域から頼まれたわけではなく勝手に始めた望まれたわけでもないし、大きなまちなので(成果が認められるようになるまで)20年くらいかかった プレストは技術。やると前向きになるからやっている本気でやってたらそのうち受け入れてくれた 時間がかかることは、まず続けること、そして楽しく続けること、信頼されるまで続けることが大事 1回目だけやって、それ以降やらなくなる人はダメ</p> <p>・鯖江市・南砺市 3月末問題(年度末までに成果を求められる)がある ただしこの2市のように行政が現場を向いていると そのような問題は起きない。海士町も同じ。</p> <p>・まちづくりのコツは、自分自身が本気で取り組むこと 自分の価値観を押し付けることなく次世代に出番を用意すること 一度始めたら周りが認めてくれるまで続けること そして楽しみながら続けること</p>
参加者	中田 中
氏名	

稲城市議会議長

渡辺 力 殿

上記のとおり、会派出張を終了しましたので報告します。

令和4年7月20日

会派名 起風会

代表者氏名 中田 中

起風会 会派出張会計報告

視察先

東京都千代田区

5月19日

1. 運賃(航空賃)

稲城駅 ⇒ 神保町駅 円 × 1人 = 503 円

※午前は市役所で公務(議員互助会の監査)のため稲城駅から出発

神保町駅 ⇒ 若葉台駅 円 × 1人 = 545 円

⇒ 円 × 人 = 円

⇒ 円 × 人 = 円

⇒ 円 × 人 = 円

⇒ 円 × 人 = 円

⇒ 円 × 人 = 円

2. タクシー(レンタカー)

⇒ 円 × 台 = 円

⇒ 円 × 台 = 円

⇒ 円 × 台 = 円

⇒ 円 × 台 = 円

⇒ 円 × 台 = 円

3. 宿泊料 円 × 人 = 円

4. 土産代 円

5. 写真代 円

6. その他(振込手数料等)
参加費 15,000 円

合計 16,048 円

以上のとおり報告します

令和4年7月20日

会計責任者 中田 中

政務活動費領収書等添付用紙

整理番号

A-1

用途基準科目 ^{研究費} _{研究費}

(領収書等貼付面)

領収証

金額

起風会

中田 中 様

No.

20

¥15000

但 第14回 日本自治創造学会研究大会 参加費

2022年 5月 19日 上記正に領収いたしました

内 訳

税抜金額

消費税額等(%)

一般財団法人

日本自治創造学会

理事長 穂坂 邦夫

東京都千代田区神田佐久間町2-24-301

コクヨ ウケ-695

(事業名、用途及び内容等)

日本自治創造学会研究大会 参加費 (2日間分)

(備考)

政務活動費領収書等添付用紙

整理番号
A-2.3

使途基準科目 **研究 費**
研修

カード残高・利用明細

カード番号: [REDACTED]
大和銀行 (最新 20件)

月日	種別	利用状	種別	利用状	残額
----	----	-----	----	-----	----





0519	入	都神保町			*4213) 503円 5/19) 545円) 545円 5/20) 545円
0519	入	稲城	出	都神保町	*3710	
0519	入	都神保町	出	若葉台	*3185	
0520	入	若葉台	出	都神保町	*2820	
0520	入	都神保町	出	若葉台	*2075	

2022.05.20 15:44 発行 401発行
・毎度ありがとうございます。
京王電鉄株式会社

(事業名、使途及び内容等)

日本自治創造学会研究大会 交通費 (5/19,20)

(備考)

議長	副議長	事務局長	次長	係長	係長	係
						

書 出 届 施 実 張 出 派 会

出張期日	令和4年5月20日(金)
出張先	2022年度 日本自治創造学会研究大会 「変化への挑戦! ~元気な地方を創り出す~」 会場:一橋大学 学術総合センター 一橋講堂(千代田区)
研究研修・ 調査課題等	「元気な地域をつくるのは、当事者の視点」 山下剛 朝日新聞記者
	「新しい千葉の時代を切り開く」熊谷俊人 千葉県知事
	「パネルディスカッション 地方行政のリーダーが語る 変化への挑戦! ~元気な地方を創り出す~」 田中幹夫 富山県南砺市長 野口市太郎 長崎県五島市長 宮本和宏 滋賀県守山市市長 コーディネーター 牛山久仁彦 明治大学教授
宿泊所	所在 名称 なし
主要交通 経路	行き:稲城駅~(京王線)~新宿駅~(都営新宿線) ~神保町駅 ※午前中公務のため市役所から出発 帰り:神保町駅~(都営新宿線)~新宿駅~(京王線) ~若葉台駅
参加者 氏名	中田 中

稲城市議会議長

渡辺 力 殿



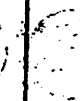
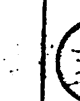

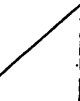

上記のとおり、会派研修を実施いたしたく届け出ます。

令和4年5月10日

会 派 名 起 風 会

氏 名 中 田 中



議 長	副議長	事務局長	次 長	係 長	係 長	係
						

会 派 出 張 終 了 報 告 書

出張期日	令和4年5月20日(金)
出張先	2022年度 日本自治創造学会研究大会 「変化への挑戦！～元気な地方を創り出す～」 会場：一橋大学 学術総合センター 一橋講堂(千代田区)
研究研修・ 調査課題等	「元気な地域をつくるのは、当事者の視点」 山下剛 朝日新聞記者
	「新しい千葉の時代を切り開く」 熊谷俊人 千葉県知事
	「パネルディスカッション 地方行政のリーダーが語る 変化への挑戦！～元気な地方を創り出す～」 田中幹夫 富山県南砺市長 野口市太郎 長崎県五島市長 宮本和宏 滋賀県守山市長 コーディネーター 牛山久仁彦 明治大学教授
	<p>「元気な地域を作るのは当時者の視点」 朝日新聞ネットワーク報道本部 山下 剛</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2000年代以降、三位一体改革から地方創生 地方分散と交付税減で地方は疲弊。その後、人口減対策として地方創生がでてきた →地方創生の検証の時期 なりわいを作る、子育てしやすい地域づくり等→効果は？ →小さいパイの中での奪い合いだったのではなかったか？ ・(個人の体験)医療的ケア児を抱え、保育園に入れず、共働きをあきらめざるを得なかった →フローレンスに預かってもらい働き続けることができた ・医療的ケア児の母親たちが「なければ作ればいい」を合言葉に次々起業→複数事業所の経営者もでてきた →こうした人達を底上げすることが本当の意味での地域おこし、元気な地域づくりではないか？ ・人口減や社会構造の変化に合わせた地方創生が必要 →若い子育て世代を取り合うだけでなく、シニア世代や女性・障害者なども含めた多用な人が参画できる社会を目指すべき →本来力をもっている議員がやるべきは、その声を聞き彼らを支援していくことではないか <p>・地方創生の取組みに独自性はない →補助金・ガイドラインに使う、成功例をまねしているだけ</p> <p>・自地域のポテンシャルを上げる取組みが求められる 例)子育て支援だけでなく、介護・病氣療養などにも対象を広げるなど</p>



<p>「新しい千葉の時代を切り開く」熊谷俊人 千葉県知事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉県総合計画ーある程度総花的となるがポイントは押さえた ・第一に重視したのは”危機管理” コロナの感染対策 <ul style="list-style-type: none"> 保健所の体制強化 <ul style="list-style-type: none"> 県-中核市3市との連携強化・情報共有・意思統一等 屋外マスク・保育所でのマスクは県では”なし”で進める 災害対策 <ul style="list-style-type: none"> 令和元年の房総半島台風、東日本台風、10/25大雨の長期停電・通信遮断・浸水等を受けて <ul style="list-style-type: none"> →停電対策、事業者との協定、市長とのホットライン構築 二級水系の治水プロジェクト ・経済産業圏 <ul style="list-style-type: none"> 1都3県でひとくりにされがちだが千葉は半島でどん詰まり <ul style="list-style-type: none"> →東京に依存しない経済圏の確立を目指す 人は子育てや福祉で住む所を決めない、仕事で決める <ul style="list-style-type: none"> →雇用創出が最優先 航空貨物の取扱1位は成田空港→更なる機能拡張図る <ul style="list-style-type: none"> →国家戦略特区で周辺農用地の土地利用規制の緩和 千葉の人口増は北西部のみ→県全体での雇用創出が必要
<ul style="list-style-type: none"> ・農林水産業の振興 <ul style="list-style-type: none"> 成田空港の検疫をワンストップで行える市場づくり→輸出 ・道路ネットワークの整備 <ul style="list-style-type: none"> 圏央道+アクアライン、北千葉道路で、成田のアクセス改善 ・子育て支援 <ul style="list-style-type: none"> 児童虐待対策、子供の貧困対策→児相の増設 ・教育施策 <ul style="list-style-type: none"> 少人数学級はバランス取りながら進める (効果の裏付けはないが教師の負担は減るので) ・印象論で進めるのではなくエビデンスベースで進める <ul style="list-style-type: none"> 子育て世代を呼び込む施策にも収支の検証が必要 高齢者が来ても介護で雇用創出などプラス効果もありうる ・千葉の魅力向上・活用 半島性の活用 ・地域づくり <ul style="list-style-type: none"> 北西部16.6万増、房総9.2万減で二極化進む <ul style="list-style-type: none"> →テレワーク、2地域居住などの推進 都心に近い割にオープンスペースが多いので、屋外でアート ・スポーツ・音楽のイベント開催 <ul style="list-style-type: none"> →自然との一体感を感じられる文化芸術活動 TDRとも芸術文化の拠点として連携を進める ・デジタル化 専門組織を今春から設置 ・カーボンニュートラル <ul style="list-style-type: none"> 産業部門の比率高くCO2大量排出県→取り組む意義大
<p>(質疑)エビデンスベースの政策を進めるには？</p> <ul style="list-style-type: none"> 学術機関との連携を図る 議員が繰り返し議会で発言する(行政は意外と聞いている)

「パネルディスカッション 地方行政のリーダーが語る
変化への挑戦！～元気な地方を創り出す～」

富山県南砺市 田中幹夫市長

- ・世界遺産の合掌造り集落、H16に8町村合併
人口4.9万、668km²
- ・空き家対策でベッド&クラフトが注目されている
滞在型でクラフトのアクティビティを楽しむ

長崎県五島市 野口市太郎市長

- ・長崎から西へ100km、11の有人島と52の無人島
人口3.4万、420km²
- ・人口減が課題、高卒の9割が島外へ

滋賀県守山市 宮本和宏市長

- ・関西のベッドタウン(京都まで27分、大阪まで57分)
人口8.5万(2045まで増)、55km²(うち11km²が琵琶湖)
- ・エリア全体で民間主導の投資広がる、ピレリ守山も復活
自転車のまちづくり

五島市の取組み

- ・有人国境離島法の施行後、2年連続社会増
(雇用増で転出抑制)
- ・地域協働課で4年連続200人以上移住受入れ
- ・空き家活用→空き家バンク(301軒中、成約202軒)
- ・リモートワーク、ワーケーションに取り組む
→824名の移住者中、661名が定着(80.2%)
- ・顔の見える関係を大切にしている

南砺市の取組み

- ・真の住民自治への再挑戦
→小規模多機能の手法で新・住民自治へ
- ・地域づくり=自治(=決める+担う)
地域の縦割り組織解消→統一自治組織に再編
住民が自分ゴトとして関わるよう意識改革
- ・通所型サービスBを各地域で開始
→稼いだお金で除雪サポート事業開始
(除雪サポート者に賃金)
- ・支援センター(非資金的支援)+基金(資金的支援)
で住民自治を支える。基金は市民・事業者からの寄付・
出資・投資、市から補助で、地域を支える

守山市の取組み

- ・地方創生総合戦略
第1期(H27-R2)
テーマ:ピワイチの発着地のまち守山
目的:湖岸リゾートエリアの活性化
→自転車含むびわ湖アドベンチャーツーリズム
- 第2期(R3-R5)
テーマ:起業家が集まるまち守山
人に焦点をおく施策展開
→守山をハブに起業家1000人のコミュニティ形成

	<ul style="list-style-type: none"> ・第1期で守山が活性化 サイクリスト増、民間投資も活況 ピワイチが国のナショナルサイクルルートに指定 ・起業家のまちづくりも進行中 守山市出身の起業家が協力 環境整備+起業家教育+民主導の取組みを支援
	<p>南砺市(2周目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育改革 チーム担任制、小中一貫教育、部活改革が三本柱 ・未来の投資 高校生に1000万円託す(半分はzozo前澤さんから) →高校生の青春を応援、市の本気を示す 空き家をリフォームし、高校生が集まる場所として活用 コアメンバー13名+サポーター100名 →5年やったら大学卒業して戻ってきてくれることを期待 <p>守山市(2周目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起業創業の支援、びわ湖ピッチ →これを機にコミュニティが同時多発的に立ち上がる ・キーワードは5, 7, S(R5新庁舎、R7村田製作所研究拠点、サスティナブル) <p>五島市(2周目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼロカーボンシティへ-浮体式洋上風力発電、潮流発電等 ・デジタル→スマートアイランド構想-ICT、ドローンの実証 ・地域資源活用-ジオパーク、世界遺産 ・交流人口拡大へ-滞在型施設今夏オープン、光回線整備
参加者	中田 中
氏名	

稲城市議会議長

渡辺 力 殿

上記のとおり、会派出張を終了しましたので報告します。

令和4年7月20日

会派名 起風会

代表者氏名 中田 中

起風会

会派出張会計報告

視察先

東京都千代田区

5月20日

1. 運賃 (航空賃)

若葉台駅 ⇒ 神保町駅 円 × 1人 = 545 円
 神保町駅 ⇒ 若葉台駅 円 × 1人 = 545 円

※交通機関の利用履歴は5/19報告書に添付済み

⇒ 円 × 人 = 円
 ⇒ 円 × 人 = 円
 ⇒ 円 × 人 = 円
 ⇒ 円 × 人 = 円
 ⇒ 円 × 人 = 円

2. タクシー(レンタカー)

⇒ 円 × 台 = 円
 ⇒ 円 × 台 = 円
 ⇒ 円 × 台 = 円
 ⇒ 円 × 台 = 円
 ⇒ 円 × 台 = 円

3. 宿泊料 円 × 人 = 円

4. 土産代 円

5. 写真代 円

6. その他 (振込手数料等) 0 円
 参加費

※1日目に支払い済み

合 計 1,090 円

以上のおり報告します

令和4年7月20日

会計責任者 中田 中